（日川高等学校）

令和４年度　学校評価結果概要

１　学校評価の方法

○　時　期　　令和４年７月（第１回）及び１２月（第２回）

○　評価者　　生徒、教職員及び保護者

○　方　法　　学校改善・点検シートにより達成度を４段階で評価する。

２　第２回学校評価結果（令和４年１２月実施）

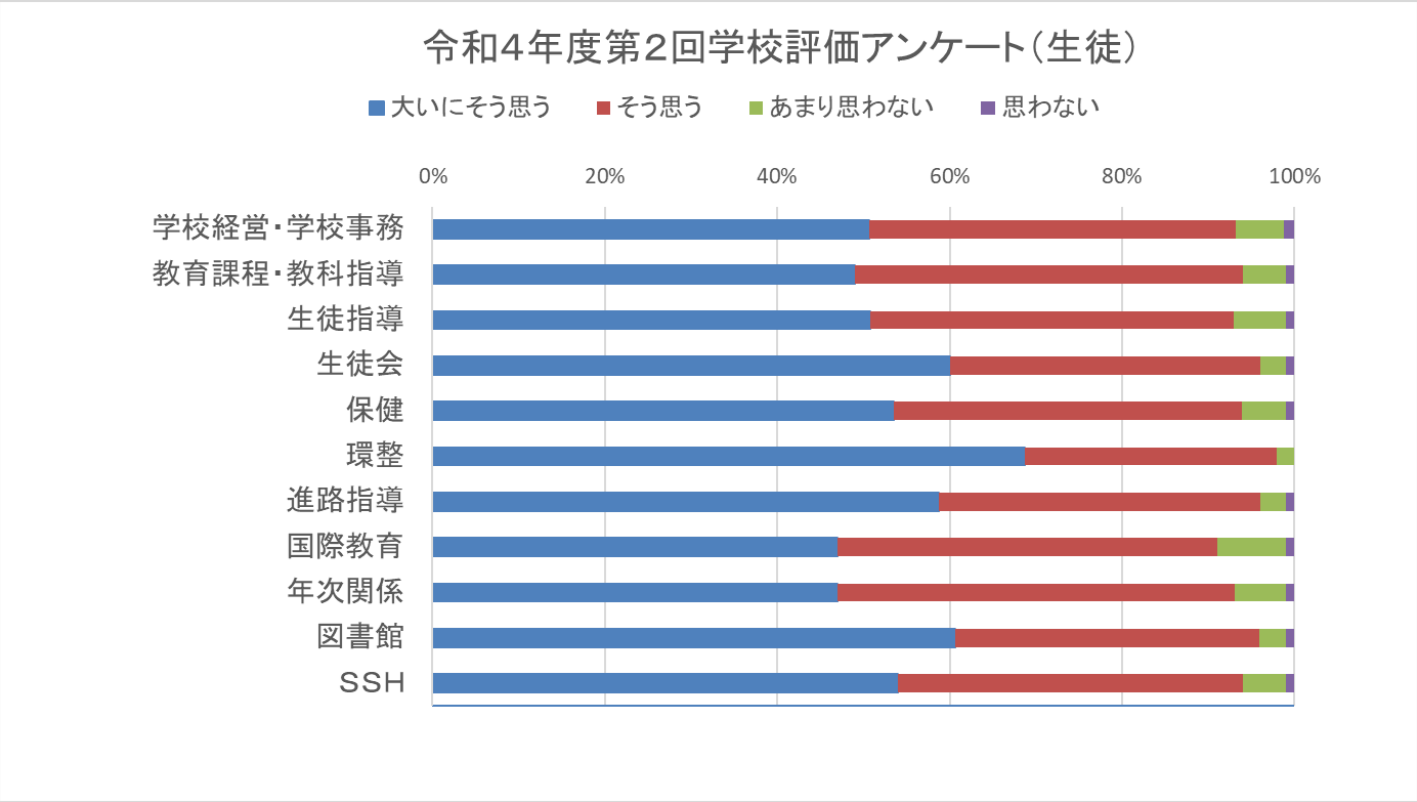
（１）生徒アンケート結果の概要について

○　対象生徒数：６０９名

○　回収者数　：５８９名（回収率：９６．７％）

○　質問項目数：１８

○　質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目１８項目で、肯定的な評価の平均は９４．０％（昨年比　－２）

○否定的な評価が高かった項目（１０％以上）　　今年（昨年比）

・　地震や火災などの災害が起こった場合の行動の仕方について具体的に知らされている。　　１３％（＋２）

【考察】

・　コロナ禍であるＲ４年度も感染対策を講じながら学校教育活動を実施してきたが、ほとんどの項目で概ね９０％以上が、１：達成されている（大いにそう思う）、２：ほぼ達成されている（ほぼそう思う）の肯定的な回答結果となった。特に「社会のルールを守る心の育成」や「環境整備」、「進路指導」に対して評価が高い結果となった。

一方で、「地震や火災などの災害が起こった場合の行動の仕方について具体的に知らされている。」が、８８％と唯一９０％を下回る評価であった。災害が発生した場合の具体的行動の周知については、避難行動の訓練が１回（他に机上訓練１回）に留まっていることに加え、２，３年次生に比べて１年次生の周知または認知不足が要因と考えられる。いじめ防止に対する指導や生徒の心身の健康に関する指導についても、入学当初から教育相談やカウンセリングを利用できる環境を整えているが、認知不足である。一方でそれを必要とする生徒に対しては、クラス担任や部顧問、分掌の教員による気づきや聞き取りで対応を十分行っている。

- ３年次生の評価について、きめ細かな指導をお願いしていたが、「信頼関係ができている」の質問項目に対し、１２％が否定的な回答をしている。教員の指導に対して、消極的な反応を示す生徒が一定数いる状況であり、回答結果はそれを反映しているものと思われる。受験期になってようやく学習に専念している生徒の状況を見ると、１・２年次からの学習への真摯な態度を育む指導が求められる。
- 本校の特色の一つでもあるＳＳＨ関連については、継続して肯定的な評価である。学校全体で取り組む課題研究や地域との連携、広報活動の成果が表れていると考えられる。
- 図書館の利用についても継続して高い評価である。図書貸出冊数の増加等、読書への誘いや来館しやすい図書室の雰囲気づくりがその要因であると考えられる。

〇生徒自己評価において否定的な評価が高かった項目（２０％以上）

- シラバスを活用して履修登録を行っている。　３０％（±０）
- 授業の予習や復習は、しっかりと行っている。　２６％（＋５）
- 家庭学習時間は、年次＋１時間程度を実行している。　４９％（＋５）
- キャリアパスポートの作成を通じて、自己を高めようとしている。　２９％（＋６）
- 読書、学習、調査のために図書館を活用している。　４８％（＋１）

【考察】

- 生徒指導および部活動や学校行事に対する自己評価は高い。学校生活を通じて望ましい生き方・在り方を身に付けようと生徒が普段から心掛けているものと考えられる。
- 履修内容等を記したシラバスを配付（１年次は年間指導計画も配付)、指導しているが、科目名や上級生からの情報等で履修登録している現状があるため、担任および年次集会等で説明する際にシラバス活用方法を丁寧に伝えたり、配付する時期等を早めたりして改善を図る必要がある。
- 予習・復習を含めた学習時間については、昨年度い比べて否定的な傾向にあるが、教育方針「文武両道」のもと、社会における有為な人材を育成するため、根気強く生徒に伝えていく必要がある。
- キャリアパスポートのメリットは、自己評価の力を高め、主体的に学びに向かうことができるようになることである。教員にとっても生徒理解が深まり、効果的なサポートや教育活動の改善につなげられる意義を伝えていく。
- 図書室の活用については、利用しやすく整備されたが、実際に利用している生徒は全体の約半数弱であることから、これらの取り組みを継続していく。
- １年次の一人一台端末（ＢＹＯＤ）導入もあり、昨年度から引き続きＩＣＴを活用した授業は大幅に進められた。オンライン授業へ対応も要領を得て、これまで以上に工夫しながら取り組んでいる様子がうかがえる。Classi は連絡ツールだけでなく個々の学習意欲を膨らませるよう個別最適な学習に対してもさらに取り組んでいく必要がある。

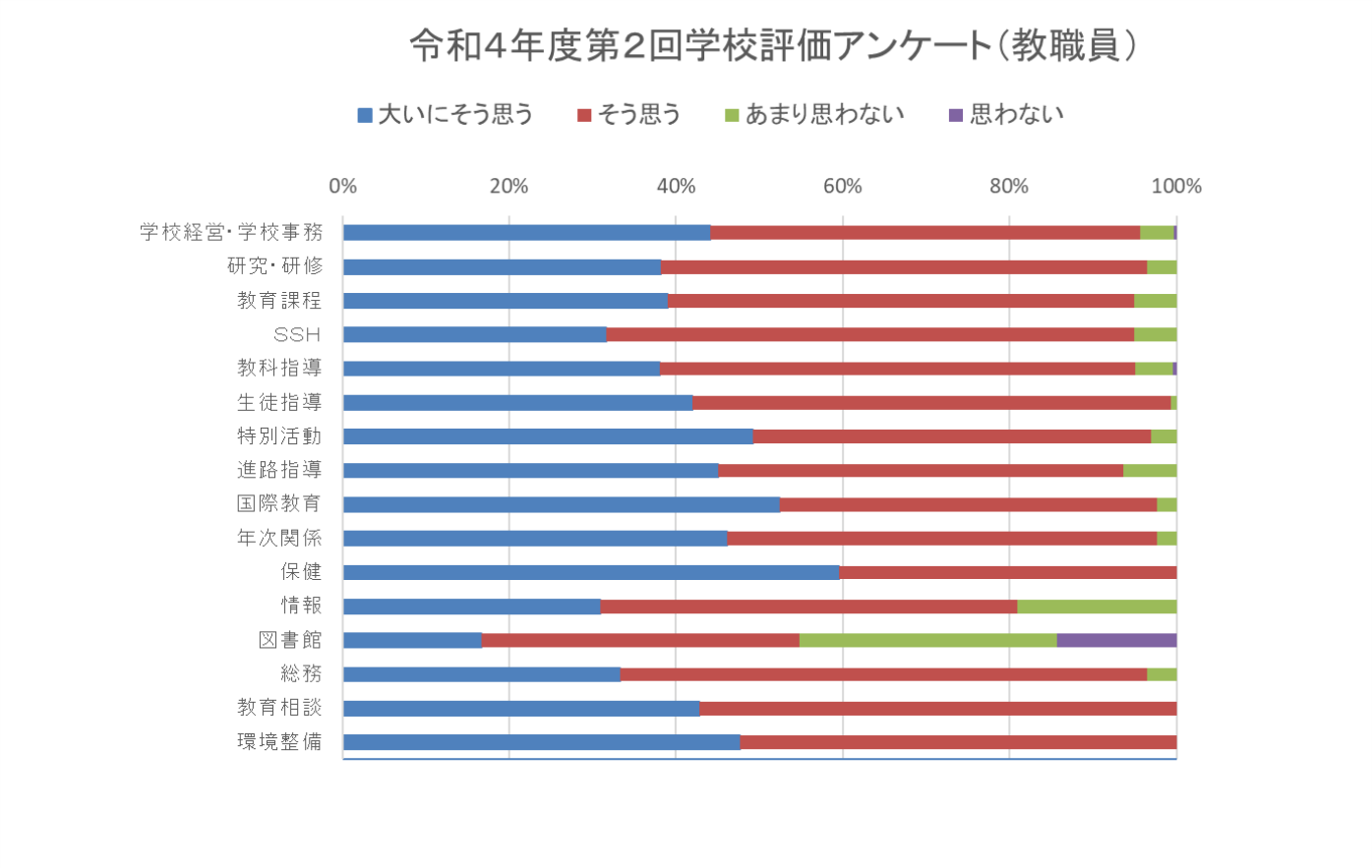
（２）教職員アンケート結果の概要について

〇対象教職員数：４３名

〇回収者数　　：４３名（回収率１００％）

〇質問項目数　：３８

〇質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目３８項目で、肯定的な評価の平均は９４％（昨年比±０）

〇否定的な評価が高かった項目（１０％以上）

▲　昨年度に比べて評価が低かった項目（１０％以上）

◎　昨年度に比べて評価が高かった項目（１０％以上）

- 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。　１２％（－９）
- シラバス等を履修ガイダンスの際に効果的に活用している。　◎　１９％（＋１３）
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善，指導と評価の一体化に取り組んでいる。　１２％（＋６）
- 指導力を高めるための自己研修・研究を行っている。　１４％（－４）
- 望ましい勤労観や職業観育成のための，キャリア教育が実践されている。　１２％（－２）
- Classi 等の教育情報コンテンツを有効に活用している。　◎　１９％（＋１１）
- 教科指導やＨＲ指導、また個人で図書館を活用している。　▲　５５％（－１８）

【考察】

- 働き方改革と並行して教職員が意欲をもって取り組める職場環境を整えられるよう管理職との面談等の機会を設けることが考えられる。
- Ｒ４年度は、各教科内で新しい観点による年間指導計画を作成し、シラバスを活用しながら指導と評価の一体化への取り組みを行った。昨年度よりも高い評価となり、今後は年次進行で活用が進んでいくと考えられる。指導と評価の一体化を着実に進めていくことこそが、自己の指導を振り返り、授業改善につな

がると考えている。また、並行して指導力向上のため教員が自己研鑽のため研修・研究を積むことは言うまでもない。

・　特別活動（ＨＲ活動・生徒会活動・学校行事）の充実を図り、キャリア教育とともに、人としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養えるように取り組む必要がある。

・　Classi 等の教育情報コンテンツの有効活用については、否定的な評価も多いが、Ｒ４年度に比べて肯定的な評価が高まった。教員各々ができることを可能な範囲で活用し、実践的なＩＣＴ活用に向けて取り組んでいると考えられる。

・　図書館の活用については、図書室と連携を図りながら活用を考えていく。

・Ｒ４年度からの新学習指導要領の本格実施を控え、多様な教育課題の克服のみならず、校長としての方針・理念が示され、人材育成や保護者・地域との連携、丁寧な対応なども周知されていると考える。

・Ｒ３年度に高い評価であった Classi 等の教育情報コンテンツ活用は、コロナ禍の休業期間にオンライン授業や課題の配信等で多くの先生方が利用したことが要因であったが、Ｒ３年度においても活用は継続していると考えている。

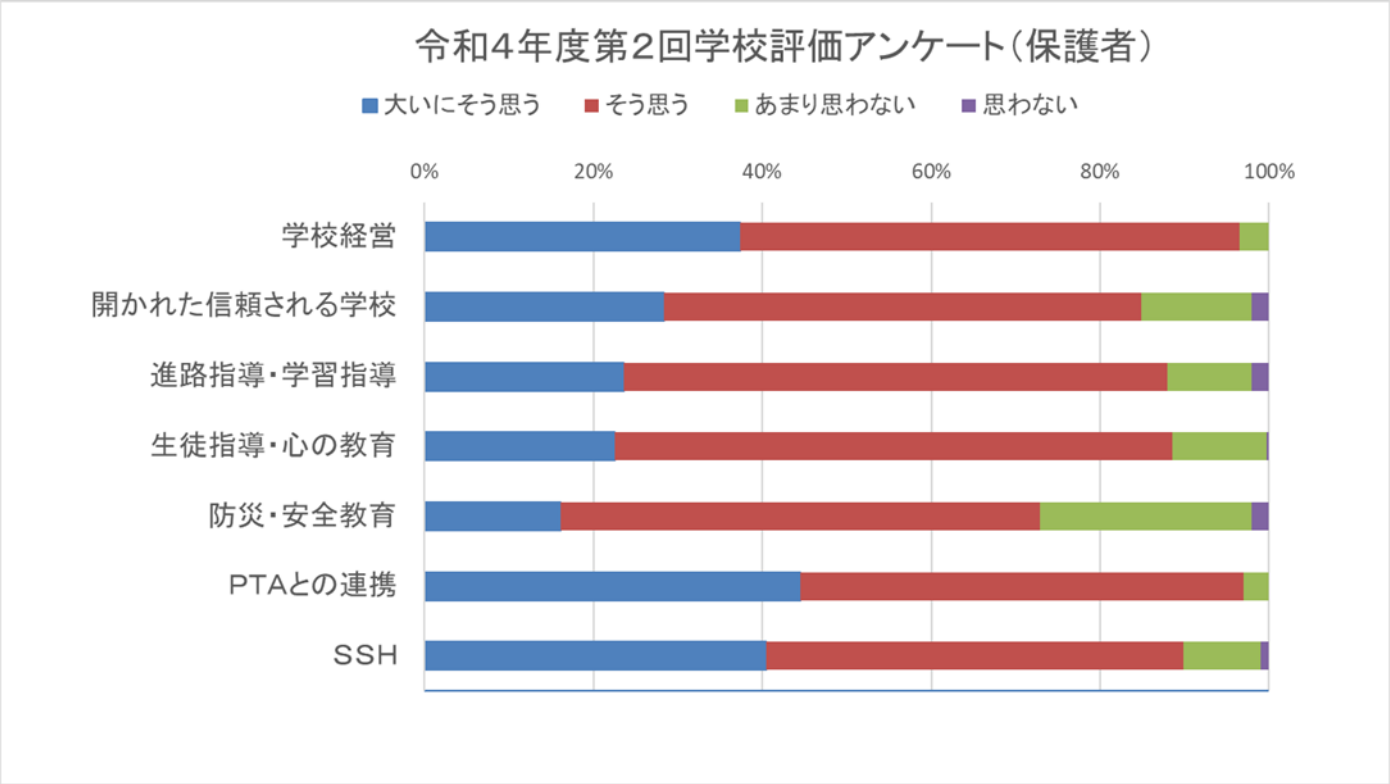
（３）保護者アンケート結果の概要について

〇対象保護者数：６０９名

〇回収者数　　：３８８名（回収率６３．７％）　※Ｒ３．６２．７％　　Ｒ２．９４．２％

〇質問項目数　：１８

〇質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目１８項目で、肯定的な評価の平均は８６，４％（昨年比　＋３．２）

〇否定的な評価が特に高かった項目（２０％以上）

・　避難・防災計画に基づき訓練を実施し，三者懇談を通じ保護者に防災計画等を説明していると思いますか。　４５％（－３０）

・　学校からの通知や案内などの配布物は，お手元に届いていますか。　２０％（＋１）

・　本校のホームページやブログを定期的に閲覧していますか。　２３％（＋１６）

【考察】

- 「文武両道」の教育方針をよく理解していただき、生徒自身の成長に向けて学習指導や部活動指導などの教育活動に概ね良好な評価をいただいている。学校と家庭・保護者との連絡や相談は非常に大切であり、直接の対応は勿論のこと、様々なツールを活用して信頼関係構築に向けて、今後も日頃から取り組んでいく必要である。
- コロナ禍による規制が緩和されたことにより、学園祭や学校説明会、授業公開等も実施につながった。三者懇談時のフードドライブ活動はＰＴＡ活動として多くの賛同、協力を得ることができた。より開かれた信頼される学校となるよう次年度以降も検討して必要はある。
- 保護者に対する情報発信は、Classi を通じて行い、かなり浸透してきているが、配布物やいじめアンケート結果等についても確実に配付、調査できるようしていく必要がある。ホームページやブログについて、要望や問合せも多く閲覧数は増えている。

３　学校評価考察

生徒、保護者及び教職員の学校改善・点検シート結果より、概ね肯定的な評価が得ている。本校の教育活動は、全体としては生徒及び保護者の期待に応えられている。学習面においては、授業の予習・復習ができていない生徒が約１/４、家庭における目標学習時間の確保ができていない生徒が約１/２と課題を残している。家庭学習の時間の確保については、継続してＨＲ担任と部活動顧問が協力連携して指導・働きかけをすることが必要である。

１年次から一人一台端末（ＢＹＯＤ）が導入された。次年度以降に向けてさらなるＩＣＴ活用は必須である。また、Classi 等を活用して、学校と家庭が連携して生徒に関わることも浸透してきた。利用したことで満足せず生徒の成果や変容につながるよう検証することも考えていかなければならない。学校からの定期考査の結果や学習時間集計などのデータを可視化し、クラス担任からの個別指導や年次における情報共有は図られている。生徒には学習目標を設定させて、自ら学習計画を描けるような指導が必要となってくる。

全教職員が、各教科で「指導と評価の一体化」による研究を深め、新評価基準に基づく学力の向上と新大学入試に向けた実力アップを念頭に「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善に取り組んでいる。知識伝達型の授業形態から脱却し、「主体的・対話的」活動を取り入れながら「深い学び」を実現することをねらいとするものである。

進路指導に関する評価では、96％以上の生徒が肯定している。適切に提示された情報等を有効に収集し、積極的に活用しようとする姿勢がみられる一方で、講演会に積極的に参加したり、オープンキャンパス、進学説明会等へ参加したりすることを通して情報を入手する等、将来の進路をイメージして学習への動機付けにする具体的な行動に繋がらない生徒もいる。キャリア教育を進める上では大きな課題であると考える。

３期目初年度のＳＳＨについては、引き続き全生徒が課題研究に取り組み、自ら課題を発見し主体的に活動することによって、課題解決能力の育成が醸成できていると考える。活動を通して学びに向かう力、探究心、課題解決能力が身に付いたという評価をしている。生徒や保護者から評価を得ているＳＳＨの教育効果を充分実感する段階まできているが、今期はさらに地域に還元できる活動を地元の企業や関係諸機関と連携して取り組んでいくことを予定している。課題研究の拡大・深化に取り組み、これまでの取組を検証して教育効果の高いものとすると共に、その成果の外部への広報についても今後さらなる努力が必要である。

保護者が教育活動に高い関心を持ち協力的であることは、教育活動を進める上で大きな推進力となるものである。保護者との強固な信頼関係を築くためには、校内の情報を積極的に公開するなど、開かれた学校づくりが欠かせない。学校ではホームページやブログ、年次だより、広報紙等を通して情報を提供している。ブログは、行事だけでなく授業や部活動、学校行事等も含め情報を発信している。

教職員については、適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担や意欲的に取り組める環境に否定的な回答があるので、管理職による面談や声かけ等を行い、意見や要望も聞き取っていかなければならない。通常の授業

や部活動の指導に加えて、不登校や多様な生徒への対応など負担も大きくなっている。数カ月続けて長時間勤務となる教職員もいる。年次有給休暇等を取得しやすい環境づくりを含め、引き続き「働き方改革」を進めていく必要がある。

学校運営については、「文武両道」を基軸とする本校の教育目標・指導重点は保護者や地域にも広く共有され、教職員はその支援を背景に教科指導・生徒指導・進路指導及び部活動指導に熱心に取り組んでいる。この強みを活かしながら、生徒に高い目標を持たせ、それを実現させるために質の高い教育活動を展開していく必要がある。さらに、本校は今後も「地域の知の拠点」として、中学生にとって魅力ある学校であり続けなければならない。特色を活かした教育活動を継続し、地域との信頼関係を揺るぎないものにしていくことが求められている。

４　課題と改善に向けて

（１）　課題

①　生徒

・学習習慣の定着と学習時間（家庭学習時間）の確保
（主体的かつ計画的な学習への取組）
・キャリア教育への意識付けと充実（キャリアパスポートの活用）
・ＩＣＴの有効活用
・図書室の有効活用

②　教職員

・生徒の進路意識の高揚と学習への動機付け
・指導と評価の一体化を図り、主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善
（年間指導計画の提示）
・ＳＳＨ全校体制の構築
・多忙化改善（長時間勤務解消）とメンタルヘルス
・ＩＣＴの有効活用
・図書室の有効活用

③　保護者

・避難･防災計画の周知
・ホームページ等を通じた家庭への情報発信の在り方について
・配布物等の取扱い（生徒指導・進路指導、ＳＳＨ等）

（２）　改善に向けて

①　新学習指導要領に基づく確かな学力、資質・能力の育成

・「知識･技能」、「思考力・判断力・表現力」の育成
・学びに向かう力、人間性等の涵養

②　授業改善、授業力向上、ＩＣＴ活用への取組

・指導と評価の一体化を図り、主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善
（年間指導計画の提示）
・生徒の変容を図る評価の研究（ルーブリックやＯＰＰなど評価についての研究）
・ＩＣＴ機器を活用方法の研究

③ 家庭学習時間の確保に向けた取組

・学習と部活動とのバランス及び下校時刻の徹底
・タイムマネジメントを意識させる取組
・課題に対する意識付けと各教科での課題量の調整
・Classi への家庭学習時間記録の徹底

④ 進路指導

・ＳＳＨと連動した進路意識高揚に向けた指導の実践
・模試データ等の教科、年次、部顧問による情報共有と連動した指導
・入試問題、小論文、面接等の分析と教員への研修
・全校体制による３年次生への進学･就職指導の充実
・保護者対象進路講演会の工夫
・キャリアパスポートを通じたキャリア教育の展開

⑤ ＳＳＨの取組

・課題研究の充実に向けた全校体制による具体的な取組
・「ちえぶくろシステム」の活用と全校体制の強化
・ＳＳＨ関連行事の充実と積極的な広報

⑥ 生徒会指導

・生徒数減少に応じた部活動体制の構築（削減検討）
・ＳＳＨ関連行事の充実と積極的な広報
・文武両道を実現する合理的な練習、指導計画の研究
・生徒、保護者、同窓生及び県民の期待に応える成果
・地域のボランティア活動への参加

⑦ 信頼される学校

・安心、安全な学校づくり（危機管理）の徹底
・学校と家庭との連携による生徒指導の実践（配布物、いじめアンケート結果等の連絡）
・Classi を通じた学校と家庭との連携

⑥ その他

・広報活動の充実による受検生の確保
・学校ホームページ、学校紹介動画、学校パンフレットのさらなる工夫